

12月の園だより

令和5年11月29日

杉並区立西荻北子供園

園長 石床 美穂子

「主体的に挑戦する子どもたち」

副園長 小森 三奈子

11月10日（金）に、令和4・5年度杉並区教育委員会教育課題研究指定園として、本園で研究発表会を行いました。区内子供園、近隣保育施設、近隣小学校、教育委員会などから、約50名が参加し、「やりたい」という思いがあふれる子どもたちの姿を見ていただきました。

今回の研究では、運動的な遊びの場面について考察し、環境（物的環境・人的環境）を工夫してきました。そのことで、どの学年も、体を動かして遊ぶことが楽しくなり、様々な運動遊びに意欲的に取り組むようになりました。

当日、年長児は鬼遊び「お宝ドロケイ」で、ドロボウ役と警察役に分かれ、宝を狙ったり守ったりと、それぞれが自分の力を発揮しながら友達と力を合わせて遊ぶ楽しさを感じていました。年中児はホールで「しっぽとり」を行い、しっぽをねらって取ったり、取られないように逃げたりすることを繰り返し、思い切り体を動かす心地よさや学級のみんなどと一緒にする楽しさを感じていました。年少児は、ぶら下がっている果物を狙って、玉を投げて落とす「くだもの落とし」を行いました。1個落とすと嬉しくて、「もう1個落とそう」と次への意欲をもち、自ら環境に関わって遊ぶ楽しさを感じていました。

また、年長組では、いろいろな運動遊びに興味をもって挑戦することが楽しくなってきたという幼児の実態から、11月に、担任がチャレンジタイムと名付けて、学級の皆で短縄を経験する機会をもちました。

みんなで同じ技に挑戦するのではなく、一人ひとりが自分のやってみたい縄跳びの技を考え、取り組みました。新たな技を考えて試したり、友達と一緒にする中で刺激を受けたりする経験があったことで、自分で選ぶ遊びの時間にも短縄だけでなく竹馬やフラフープなどにも、めあてをもって取り組むようになりました。

竹馬は、補助足付きから始め、慣れてきたら幼児自身が補助足の無いものを選んで取り組んでいます。バランスをとるのが難しいですが、「できるようになりたい」という思いがあることで、繰り返し練習し、諦めないで取り組んでいます。また、友達同士で、コツを伝え合ったり、励ましてもらったりする関りも支えになっています。できるようになると達成感を感じ、「もっと頑張ろう」と次への意欲につながっています。

短縄は、自分で考えた跳び方に挑戦し、跳べるようになると、数を数えて「もっと多く跳べるようになりたい」という気持ちをもって取り組んでいます。

このような年長児の姿を見て、年中児も「やってみたい」という思いがムクムクと大きくなってきました。保育者が大縄を動かすと、左右に動く縄を飛び越えたり、縄の動きを見てタイミングを合わせて跳んだりするなど、少しずつコツを掴んできました。また、一本下駄も、挑戦している友達の姿を見て刺激を受けたり、保育者に励まされ、見守ってもらったりする中で「やってみよう」と意欲をもち、何度も試しています。バランスをとって立つことができるようになると、「今度は、これで歩いて進みたい」と次のめあてをもって挑戦し、前に進めるようになってきました。

先の研究発表会で、講師の田代幸代先生のご講演に、チクセント・ミハイの『フロー体験 喜びの現象学』についてのお話がありました。人は、能力に対してレベルが低い活動だと飽きてしまい、能力に対してレベルが高すぎると不安から取り組みにくい。しかし、能力より少し手応えのある活動だと、新たな挑戦を見出し、能力を発揮することができると言われていました。

そのようなことから、私たち保育者は常に幼児の姿を読み取り、幼児が“やりたい”という思いをもって主体的に遊べるように環境や援助を工夫しています。

今後も、幼児の“やりたい”という思いを大事に、保育を進めてまいります。

子どもたちの様子と今月のねらい

3歳児 うさぎ組

園舎裏や散歩先で落ち葉やドングリ拾いをして、秋の自然に親しみました。葉っぱは絵の具のスタンプングをしたことで、より興味をもつようになり、散歩中にもみじの木を見つけると「これ、前に絵の具ぬりぬりしたやつだ！」と気付いて知らせる姿がありました。室内遊びでは、2人で場をつくり、簡単なやりとりをしながらごっこ遊びを一緒にすることを楽しんでいます。今月は、引き続きやりとりを楽しんだり、簡単なルールのある遊びで体を動かしたりしながら、幼児同士の関わりを増やし、一緒に遊ぶ楽しさを十分感じられるようにしていきます。

<今月のねらい>

- 同じ場にいる幼児と関わり、簡単なやりとりをしながら遊ぶ楽しさを味わう。
- 保育者や他の幼児と一緒に簡単なルールのある遊びを楽しむ。
- 冬の生活の仕方（衣服の着脱、手洗い等）が分かり、自分でできることを自分でしようとする。

<家庭との連携>

上着のチャック上げや、袖のひっくり返しなど、季節の移行に応じて衣類の着脱が変わってきました。難しいお子さんは「先生、やって」と言葉で知らせてくれる姿も増えてきました。園では、一緒にやりながら少しずつ身に付けているところです。ご家庭でも、難しいことはやり方を伝えながら一緒にやるようにし（お子さん1人でできるところは見守り）、「自分でできた！」という思いを感じられるようにしていきましょう。

4歳児 くま組

気持ちの良い秋晴れの日が多く、くま組の子どもたちは園庭で体を動かす心地よさを感じています。フープを使って対戦する“ふたりしっぽとり”では、逃げる・取る・よける等の動きがより機敏になってきました。また、一本下駄や大縄など、少し難しいことにもチャレンジしてみようとする姿が増えています。12月からは縄跳びにも挑戦していきます。今月は子ども会という大きな行事もありますが、日頃楽しんでいる遊びも生かしながら、取り組みを進めていきたいと思えます。

<今月のねらい>

- 友達と遊びの中でやりとりをしながら、思いやイメージを伝えて遊ぶ楽しさを味わう。
- 物語に親しみ、役になりきって動いたり言葉を言ったりして、友達と一緒に表現することを楽しむ。
- 冬の生活の仕方が分かり、自分から身の回りのことをしようとする。

<家庭との連携>

11月の個人面談ありがとうございました。友達と一緒に遊ぶことが楽しくなってきました。その反面、思いの違いや伝わらないもどかしさなどから、葛藤する姿やトラブル等も見られます。それぞれが、思いを出せるように支えていきますが、気になることがありましたら、遠慮なくお知らせください。

5歳児 そう組

「チャレンジタイム」と称して縄跳びや竹馬に繰り返し取り組んでいます。自分ができるようになりたい技をあきらめずに挑戦したり、友達が挑戦している姿に刺激を受けてやってみようとしていたりしています。その中で少しずつできるようになっていく嬉しさを感じたり、友達が頑張っていることに気付いたりしています。

子ども会に向けても意欲的に取り組み始めています。運動会でお話を考えたり、グループの友達と踊りを考えたりした経験を生かし、劇づくりをしています。役の気持ちを動きや言葉にして伸び伸びと表現したり、同じ役の友達や同じ場面が出る友達とひとつひとつの場面をどうするか相談したりしています。そう組のみんなで「子ども会」という共通の目的に向かって、“やりたい”思いをもって進めています。

<今月のねらい>

- 学級の友達と共通の目的に向かって協力し合い、やり遂げた喜びや達成感を感じる。
- めあてに向けて諦めずに挑戦し、満足感を味わう。
- 生活の流れに見通しをもち、時間を意識して行動する。

<家庭との連携>

今月は、保育参観・個人面談を予定しています。保育参観では、学級全体の活動の中での友達との関わりの様子や、担任の話を聞いて理解して動く姿などをご覧いただければと思います。個人面談に向けては、気になることがありましたら事前に担任までお知らせください。

ほしグループ 長時間保育

夕方になるとぐっと冷えてきますが、戸外で遊ぶことが楽しく喜んで園庭で遊んでいました。うさぎ組は園庭で保育者と家をつくり、家の中にテレビを置いたり砂場でつくった食べ物を持ち込んだりしてごっこ遊びを楽しみました。また、くま・そう組は何人かで氷鬼をして一緒に遊ぶことを楽しみました。また、なわとび、竹馬、一本下駄などにじっくり挑戦する姿もありました。

みんなの部屋では、くま・そう組が遠足に行った経験から、見てきた魚や魚の絵をかきました。そして魚を切って、海に見立てた壁面に嬉しそうに貼りました。うさぎ組の子どもたちも楽しそうな雰囲気を感じて思い思いに魚の絵をかき始め、そう組のお兄さんお姉さんにはさみで切ってもらって貼り、みんなの部屋に素敵な海の壁面ができました。

12月はますます日が短くなり暗くなるのが早くなったり寒くなったりしていきます。上着を着用しながら遊んだり早めに保育室に入ったりして体調管理に努めていきたいと思っています。